

受領No.1491

四輪自動車ドライバーの「オートバイ軽視」傾向がもたらす 交通事故リスクに関する研究

代表研究者 川端 祐一郎 京都大学大学院 工学研究科 助教
共同研究者 柳川 篤志 中央復建コンサルタンツ株式会社 コンサルタント



A study on the relationship between car drivers' disrespectful attitudes toward motorcycle riders and the risk of traffic accident

Representative Yuichiro Kawabata, Graduate School of Engineering, Kyoto University, Assistant Professor

Collaborator Atsushi Yanagawa, CHUO FUKKEN CONSULTANTS CO.,LTD., Consultant

研究概要

オートバイは事故率や死亡率が四輪自動車に比べて格段に高いが、近年欧米で行われた研究によると、オートバイと四輪自動車の接触事故においては、四輪ドライバー側の誤判断や不適切な行動が原因となるケースが想像以上に多いことが示唆されている。また、四輪ドライバーが総じてオートバイの存在を軽視し、場合によっては「バイク乗りはマナーが悪い」といった侮蔑的な信念を抱いていることも指摘されており、こうした心理傾向が交通事故リスクを高めている可能性もある。

しかし、四輪ドライバーのオートバイに対する軽視や偏見について、定量化された実証的知見はほとんど存在しないのが現状である。また、交通心理学の分野においてオートバイは研究対象になりにくく、周辺の研究蓄積も乏しい。

そこで本研究では、四輪ドライバーが「オートバイへの軽視」傾向をどの程度持っているのか、二輪ライダーが「四輪ドライバーからの軽視」をどの程度感じているのかについて心理学的調査を行い、それらが事故リスクとどのように関係しているかを分析する。これらにより、四輪車・二輪車間の事故原因について新たな洞察を提供することが本研究の目的である。